



第14回 亜細亜現代美術展 「器」

倉園冠堂

漆工芸品の生命は、その木地の強弱にあるといっても過言でない。その意味で木地としての欠点をもつ、木材の収縮、膨張による「狂い」を、合板の積層接着で改良して、従来の漆器の欠点を除去し、造形美的には、二次元の材料をもって、三次元へと、全体のフォルムは五べんの花をイメージに変形五角の立体でまとめ、リズムカルな積層文を強調した。

(380×420×190cm)

於 東京都美術館  
亜細亜美術会員